

第2章 松江市の文化財の概要

1. 代表的な既存の文化財調査

1) - 1 有形文化財（建造物）

- ①『民家緊急調査報告書』（昭和44年 島根県教育委員会）
- ②『島根県近世社寺建築緊急調査報告書』（昭和55年 島根県教育委員会）
- ③『島根県の近代化遺産』（平成14年 島根県教育庁）
- ④『島根県の近代和風建築』（平成30年 島根県教育庁）
- ⑤「建造物悉皆調査」（平成26年～ 松江市）
- ⑥「松江市社寺建築悉皆調査」（令和元年～2年 松江市）

1) - 2 有形文化財（美術工芸品）

- ①『島根県の美術家 絵画編』（昭和55年 島根県立博物館）
- ②『島根県の工芸』（昭和62年 島根県立博物館）
- ③『島根県の文化財 仏像彫刻篇』（平成2年 島根県立博物館）
- ④『島根県の文化財 仏画・仏教工芸篇』（平成7年 島根県立博物館）

1) - 3 有形文化財（古文書）

- ①『宍道町史史料目録Ⅰ』（平成13年 宍道町・宍道町教育委員会）
- ②『宍道町史史料目録Ⅱ』（平成14年 宍道町・宍道町教育委員会）
- ③『乙部家等古文書史料調査目録』（平成22年 松江市教育委員会）
- ④『松江市内寺社史料調査目録』（平成26年 松江市教育委員会）
- ⑤『松江市内公民館等所蔵文書調査目録（1）』（平成28年 松江市）
- ⑥『松江市内公民館等所蔵文書調査目録（2）』（平成28年 松江市）

2) 無形文化財

- ①『美しき工芸技術』（昭和45年 島根県文化財愛護協会）
- ②『島根の工芸調査「ものづくりに聞く」』（平成14年 島根県文化振興財団）

3) 民俗文化財

- ①『民家緊急調査報告書』（再掲 昭和44年 島根県教育委員会）
- ②『松江の民俗芸能』（昭和51年 松江市郷土芸能文化保護育成協議会）
- ③『熊野の民具』（昭和59年 八雲村文化財保護協会）
- ④『島根半島漁労習俗調査報告書』（昭和60年、61年 島根町教育委員会）
- ⑤『島根県の諸職：島根県諸職関係民俗文化財調査報告書』（平成5年 島根県教育委員会）
- ⑥『松江市史』別編「民俗」（平成27年 松江市）

4) 記念物

- ①『出雲・隠岐の城館跡』（平成10年 島根県教育委員会）

- ②『島根県の近代化遺産』（再掲 平成14年 島根県教育庁）
- ③『古典に登場する名勝地調査』（平成30年3月 島根県教育委員会）
- ④『松江市史』史料編「自然環境」（平成30年 松江市）

5) 文化的景観

- ①「みんなで残したい松江の景観400選集」（平成23年 松江市）

6) 伝統的建造物群

- ①「建造物悉皆調査」（平成26年 松江市）
- ②松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査（令和4年 松江市）

7) 埋蔵文化財

分布・試掘調査を実施し、包蔵地の把握に努めています。把握した情報は、遺跡分布地図に記載するとともに、包蔵地として価値が認められるものについては、随時遺跡台帳に登載しています。

・埋蔵文化財包蔵地 2,463件（令和3年4月30日現在）

8) その他全般

- ①「わがまち自慢発掘プロジェクト」（平成22年～25年 松江市）
市内全公民館区ごとに、地域のたからの掘り起こしを行い、マップを作成しました。

②『松江市史』

10年にわたる編纂事業を通じて、全18巻の刊行を行いました。

通史編全5巻で松江市域約4万年の歴史を叙述し、史料編で自然環境、考古資料、古代、中世、近世、近現代、絵図・地図の貴重な資料を編纂しました。松江城と民俗は別冊編集しました。

通史編	1巻	自然環境・原始・古代	別編	17巻	松江城
	2巻	中世		18巻	民俗
	3巻	近世Ⅰ			
	4巻	近世Ⅱ			
	5巻	近現代			
史料編	6巻	自然環境			
	7巻	考古資料			
	8巻	古代・中世Ⅰ			
	9巻	中世Ⅱ			
	10巻	近世Ⅰ			
	11巻	近世Ⅱ			
	12巻	近世Ⅲ			
	13巻	近世Ⅳ			
	14巻	近現代Ⅰ			
	15巻	近現代Ⅱ			
	16巻	絵図・地図			

2. 今後の文化財調査について

「松江市史」編纂事業をはじめ、文化財調査の蓄積は進んでいますが、市内全域・全文化財類型の悉皆的調査が完了したわけではありません。第3章で後述する「4つの地域と12のゾーン」単位で、年次計画を立てたうえで、文化財類型ごとに専門家がチームを組んで地域に入り、調査を実施します。

また、庁内各部署において、既存の調査研究事業を更に進めていくとともに、特に調査が必要な文化財類型、地域については、別途計画的な文化財調査の実施を検討します。

<主な文化財類型と今後の調査方針など>

□有形文化財（建造物）

●現状と課題

社寺建築については、令和3年度に市内全域の悉皆調査を実施済み。

民家などについては、一部エリアでは、外観悉皆調査を実施しているが、市内全域では未実施。

●今後の方針

松江市独自の歴史的建造物登録制度などを活用し、近現代建築物を中心に民家などの調査を進めていく。

□有形文化財（美術工芸品）

●現状と課題

島根県立博物館などでの既往調査の実績はあるものの、市内全域での悉皆的な調査は未実施。

●今後の方針

地域調査にあわせて、社寺所蔵の美術工芸品などについて計画的な調査を検討する。

□文書資料

●現状と課題

『松江市史』編纂過程で、中世以前の資料については悉皆的な調査を実施済み。

●今後の方針

近世以降の文書については、地域調査の中で、地域ごとの所在調査を進める。

□無形文化財

●現状と課題

関係機関による調査実績はあるものの、松江市内について体系的・学術的な調査は未実施。

●今後の方針

産業振興部署とも連携を図り、まずは工芸技術者の把握などを進め、情報の蓄積を図る。

また、食文化をはじめ、生活文化関連の文化財についても、その調査研究体制について検討を行っていく。

□民俗文化財

●現状と課題

有形文化財については、島根町・八雲町などにおいて民具を中心とした調査実績、収集実績あり。

無形民俗文化財については、『松江市史』において別編で「民俗」を刊行済み。一方、学術的な個別調査などは未実施。

●今後の方針

有形民俗文化財のうち、民具については、市所有の整理作業を先行的に行う。

無形民俗文化財については、島根県古代文化センターなどとも連携を図り、地域調査とも連動さ

せる形で更に調査を進めることが必要。

また、個別の民俗文化財に対しての詳細調査も計画的に実施していく。

□記念物

●現状と課題

史跡は現状では埋蔵文化財の発掘調査により新たに認識された重要遺跡を新規・追加指定していることが多い。名勝天然記念物は積極的な所在確認調査が不足しており、指定が進んでいない。

●今後の方針

重要遺跡は、計画的に保存目的の発掘調査を行い、史跡指定を目指していく。名勝天然記念物はジオパーク関連の部署や機関と連携しながら、調査を進める。

□文化的景観

●現状と課題

景観全般については、「みんなで残したい松江の景観 400 選集」を編纂。地域で大切にしている景観をまとめている。

●今後の方針

文化的景観として継承すべき景観の抽出、その調査研究について検討を行う。

□伝統的建造物群保存地区

●現状と課題

「歴まち計画」における旧城下町、美保関町、宍道町については、面的な建造物調査を実施済み。

●今後の方針

上記のうち、美保関エリアについては、伝統的建造物群保存地区の選定に向けた調査を実施する。

□埋蔵文化財

●現状と課題

計画的な分布調査が進まないこともあって、開発の都度、試掘確認調査を実施することに追われているのが実情である。保存目的のための発掘調査は、郊外の宅地化等に対応するために毎年行っているが、専門職員の不足等により後手後手に回りがちである。記録保存のための発掘調査実施の依頼は増加の一途を辿っているが、組織人員の問題もあって、その希望に応えられていない。

●今後の方針

専門職員の補充と組織の検討を行い、記録保存のための発掘調査の効率的実施を図るとともに、計画的な分布調査や地域調査を実施していく。

3. 指定等文化財の概要

松江市には、国、島根県、松江市の指定文化財が総計 253 件（令和 6 年 8 月 9 日現在）存在します。その内訳は国指定 60 件、県指定 80 件、市指定 113 件です。指定文化財のうち、有形文化財が 160 件で半数以上を占め、うち建造物は 26 件が指定されています。次に多いのは記念物で 78 件です。そのうち遺跡が 50 件を占めます。無形文化財と民俗文化財は件数が少なく、それぞれ 1 件と 14 件です。指定文化財のほかに登録有形文化財が 39 件、登録有形民俗文化財が 2 件、登録有形記念物が 1 件あります。

1) 国指定文化財

松江市に所在する国指定文化財は 60 件あります。

建造物は、国宝の神魂神社本殿、松江城天守をはじめ、重要文化財の神社建築（美保神社本殿、佐太神社本殿など）、茶室建築（菅田庵）、江戸時代に本陣としても使われた商家（木幡家住宅）などがあり、いずれも松江の歴史と文化を代表する建築物です。

絵画は、八重垣神社の本殿の内壁を飾っていた板絵著色神像があり、素戔鳴尊や稲田姫命などを極彩色で描いたもので、国内最古級の板絵神像として重要文化財に指定されています。工芸品は、天倫寺の高麗製銅鐘や佐太神社に奉納された鎧・兜類、彩絵繪扇などがあり、いずれも重要文化財に指定されています。

彫刻は、美保関の佛谷寺大日堂に安置されている木造薬師如来坐像1 軀、木造聖観音立像3 軀、木造菩薩形立像1 軀や華蔵寺の木造薬師如来坐像などの仏像があり、重要文化財に指定されています。

考古資料は、古墳時代の埴輪窯跡から発見され、「見返りの鹿」とも呼ばれている平所遺跡埴輪窯跡出土品や「額田部臣」の銘文入り鉄刀を含む出雲岡田山古墳出土品などがあり、ともに重要文化財に指定されています。



国宝 神魂神社本殿

重要文化財 貴布禰稻荷両神社本殿



重要文化財

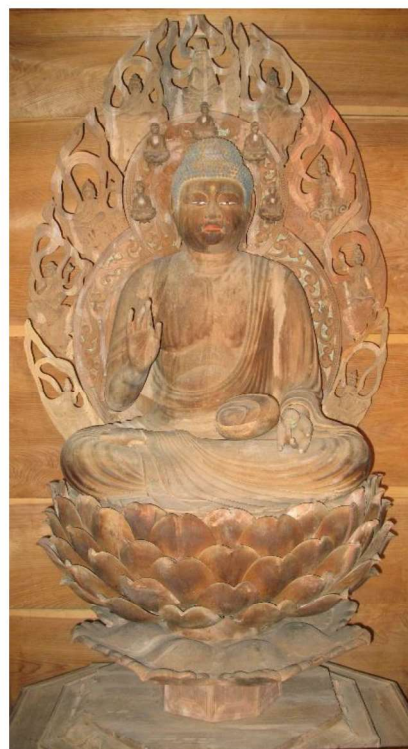
平所遺跡埴輪窯跡出土品

民俗文化財は、美保神社の諸手船神事^{もろたがね}で使われる諸手船や、奉納された鳴物^{なりもの}846点などが重要有形民俗文化財に指定されているほか、佐太神社に伝わる佐陀神能が重要無形民俗文化財に指定されています。

佐陀神能は、平成23年(2011)11月27日に無形文化遺産保護条約政府間委員会で、人類の無形文化遺産の代表的な一覧表に記載されました(ユネスコ無形文化遺産)。

史跡は、先史から近代まで幅広くあります。縄文時代では山陰を代表する貝塚である佐太講武貝塚や中海に面するサルガ鼻洞穴遺跡などが指定されています。古墳時代以降は格段に数が増え、島根県下最大規模を誇る山代二子塚古墳、5世紀の大型方墳の石屋古墳、玉作りの中心地であった出雲玉作跡^{いずもたまつくり}、出雲国府跡や出雲国分寺跡など、古代出雲を代表する遺跡が松江市南郊に集中しています。一方、江戸時代を代表する史跡は主に松江市の北側に位置し、松江城や松江藩主松平家墓所があるほか、明治時代に武家屋敷を借りて住まいした小泉八雲旧居も史跡指定を受けています。

名勝は、日本海に面したリアス式海岸に景勝地が多く、美保の北浦などが指定されています。天然記念物は、熔岩流の作用によって形成された大根島の熔岩隧道^{ようがんすいどう}が特別天然記念物に指定されています。また日本海に面した地域では海食等によって形成された自然地形が豊富に残り、島根町の多古の七ツ穴や築島^{つきしま}の岩脈が天然記念物として指定されているほか、『出雲国風土記』(733)に見える佐太大神の生まれた場所とされている潜戸^{くへど}は、幻想的な雰囲気を持つ海中洞窟で、名勝及び天然記念物に指定されています。



重要文化財

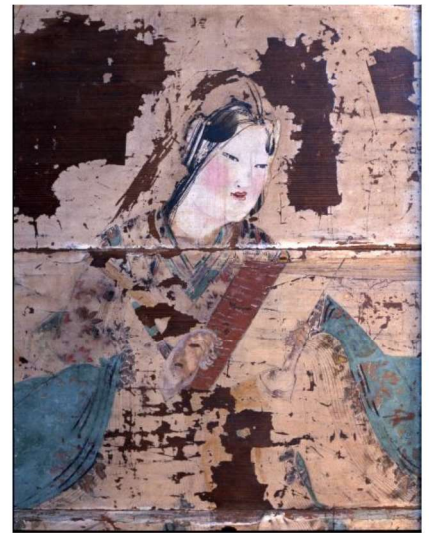
華蔵寺木造薬師如来坐像



重要文化財
銅鐘（天倫寺蔵）



重要文化財 佐太神社彩繪檜扇



重要文化財 八重垣神社板絵著色神像



史跡 石屋古墳



史跡 小泉八雲旧居



史跡 佐太講武貝塚



名勝 美保の北浦

2) 島根県指定文化財

島根県指定文化財は 80 件あります。

建造物は、神社建築（真名井神社本殿、^{うち}内神社本殿）、茶室建築（明々庵）、松江藩主松平家墓所の^{びやうもん}廟門建築（高真院^{こうしんいん}廟門、大圓庵^{だいえんあん}廟門）があるほか、明治時代の擬洋風建築の^{こうらんかく}興雲閣があります。

絵画は、天倫寺^{てんりんじ}蔵白隠筆^{はくいん}の頂相^{こうじやうじ}や迎接寺^{こうじやうじ}蔵絹本^{けんぼん}著色^{しやくしよく}岡界曼茶羅^{りやうかいまんだら}図、六所神社^{ろくしよじんじゃ}蔵紙本^{しほん}著色^{しやくしよく}勅使代^{しほんちやくしよくちやくしだいさんこう}参向^{さんかう}図、洞光寺^{どうくわうじ}蔵絹本^{けんぼん}著色^{しやくしよく}尼子^{にしよ}経久^{きんきう}像などが指定されています。彫刻は金剛寺^{こんがうじ}蔵木造馬頭観世音菩薩^{ぼとうかんぜおんぼさつぎざう}坐像^{じやうざう}、成相寺^{じやうしやうじ}蔵木造神像群^{しんめがく}、平浜八幡宮^{へいひんはつぱんぐう}蔵木造神馬^{しんめ}、佐太神社^{さたじんじゃ}蔵舞楽面^{ぶがく}陵王^{りやうおう}、報恩寺^{ほうおんじ}蔵木造十一面^{じゅういちめん}観音立像^{くわんおんたつざう}といった神仏にかかもの指定されています。工芸品は銅鐘^{どうしゆ}（迎接寺）など寺社にかかわるものや、佐太神社蔵大野^{おの}太刀^{たち}など刀剣類が多く指定されています。

書跡は、滋賀県の石山寺に納められた 100 巻の紙本^{しほん}墨書^{ぼくしよ}大智度論^{だいちどろん}のうちの 2 巻や、新古今和歌集^{こきん}の 13 世紀後半の写本である紙本墨書新古今和歌集^{れいほん}零本^{れいぼん}などがあります。古文書としては神魂神社^{かむす}、八重垣神社^{やえがき}、熊野大社^{くまの}、迎接寺^{こうじやうじ}、掛夜神社^{いや}に伝わる文書があります。考古資料は細形銅剣^{こうしやう}、伝宍道町^い出土邪視文^{しやし}の銅鐸^{どうたつ}、古浦砂丘遺跡^{こうら}出土品、上野 1 号墳^{かう}出土品、出雲国府跡^{くわん}採集とされる銅印「春」があります。

無形文化財のうち工芸技術としては、漉き和紙^{かん}の雁皮紙^び 保持者：安部信一郎氏を認定しています。

史跡は古天神古墳^{こてんじんこふみ}、薄井原古墳^{うすいはらこふみ}、報恩寺古墳群^{ほうおんじこふみぐん}、椎山 1 号墳^{しいやま 1 号ふみ}をはじめとした多くの古墳や、山代郷南新造院跡^{やましろきょうなんしんぞういん}など奈良時代の寺院関連遺跡、古墳時代の祭祀遺跡として女夫岩遺跡^{めおといわ}があります。



県指定有形文化財 迎接寺銅鐘



県史跡 女夫岩遺跡



県指定有形文化財 興雲閣

3) 松江市指定文化財

松江市指定文化財は 113 件あります。

建造物は、江戸時代の武家屋敷の建築物や、茶室建築、寺社の門、および明治初期に建てられた擬洋風の病院建築などがあります。

絵画には、西光寺蔵の^{ながさわるせつ}長澤蘆雪筆^{ふすまえ}の紙本墨画^{しほんぼくが}襖^{ふすま}絵や、西光寺（和多見町）蔵の阿弥陀如来並聖衆米迎図^{あみだにがらみ}などがあります。彫刻は、清安寺蔵の木造ルシヤナ仏坐像^{らんま}はじめ仏像が多く、欄間^{らんま}や狛犬^{こまいぬ}（八重垣神社）なども指定されています。工芸品は、松江城^{ひながた}天守雛形^{てんしゅひながた}をはじめ、松江藩関連のものも多く指定され、八雲町大日地区^{やにぐち}の大日堂^{おほひのう}鰐口^{わにぐち}などの仏教関連の工芸品もあります。

書跡・古文書は、堀尾古記をはじめ松江藩にかかわる古文書が数多く指定されています。考古資料

は、熊野銅鐸をはじめ先史から中世に至る遺物があります。歴史資料は、松江城縄張図、元禄出雲国絵図、^{しんじい よのかみ}宍道伊予守遺物^{くじょう おおげき}九条大袈裟などがあります。

有形民俗文化財は、新嘗祭に使われ、神魂神社に伝わる^{ひきりうす}火鑽臼や、^{どう}鑿行列の歴史を知る上で貴重な歳徳神行事に関する宮宿などがあり、無形民俗文化財は、秋鹿大日堂に伝わる秋鹿大日堂^{おとう}御頭行事や、城山稻荷神社から阿太加夜神社に御神霊を船で運んで祈願する^{かいでん}ホーランエンヤ^ま權伝馬踊りがあります。

記念物は史跡として松江藩主堀尾忠晴墓所や講武岩屋古墳など、天然記念物は^{せんじゅいん}千手院のしだれ桜をはじめ多くの樹木のほか、動物では八雲町西岩坂秋奥のモリアオガエル産卵池などがあります。

以上のように、松江市の指定等文化財は文化財類型の各種にわたっており、また時代も先史から近代まで幅広いことが特徴です。

4) 登録有形文化財

登録有形文化財 39 件は、主に明治以降の建造物が登録されていて、松江市の近代化に寄与し、一部は現在もなお現役で機能している水道関連施設（^{せんぼんちよすいちえんてい}千本貯水池堰堤、忌部浄水場施設、^{しょうぎざん}旧床几山配水池）や^{ごうぎん}カラコロ美術館、和風建築の旅館、また洋風建築の病院などがあります。



登録有形文化財 千本貯水池



登録有形文化財 美保館

4. 関連する制度

1) 松江市登録歴史的建造物

松江市固有の貴重な歴史的建造物を保全継承するため、平成 26 年（2014）から悉皆調査を実施し、平成 28 年（2016）7 月に「松江市歴史的建造物の保全継承及び活用の推進に関する条例」を制定し、文化財保護法に基づく条例による文化財登録とは別に市独自の登録制度を設けています。旧城下町エリア、美保関エリア、宍道エリアに存在する建造物及び市内の登録有形文化財を対象として、江戸時代の町家や酒蔵、明治時代の銀行、大正時代のビルなどが松江市登録歴史的建造物として保全・活用されています。

現在、18 件の建造物が登録されています。

松江市所在の指定等文化財数

令和6年8月9日現在

種別	区分						合計	松江市 登録 歴史的 建造物
	指定				登録	選択		
	国	県	市	計	国	国		
有形文化財	27 (2)	56	77	160	39		199	18
建造物	8 (2)	6	12	26	39		65	18
絵画	1	14	6	21	—		21	—
彫刻	8	5	10	23	—		23	—
工芸品	5	13	14	32	—		32	—
書跡	—	4	1	5	—		5	—
古文書	—	8	13	21	—		21	—
考古資料	5	6	10	21	—		21	—
歴史資料	—	—	11	11	—		11	—
無形文化財	—	1	—	1	—	—	1	—
工芸技術	—	1	—	1	—	—	1	—
民俗文化財	4	2	8	14	2	3	19	—
有形民俗文化財	3	2	6	11	2		13	—
無形民俗文化財	1	—	2	3	—	3	6	—
記念物	29 (1)	21	28	78	1		79	—
遺跡	22	18	10	50	—		50	—
名勝地	2	—	2	4	1		5	—
動物、植物、地質鉱物	5 (1)	3	16	24	—		24	—
計	60 (3)	80	113	253	42	3	298	18

※ () は国宝又は特別記念物の数で内数

5. 指定等がされていない文化財

1節で調査を行った文化財のなかには、法や条例などに基づく指定等がされていないものも多くあります。またそれらは2節で述べた調査で新たに多くの文化財が発見されていきます。将来に向けて保存・活用していくべきものが、まだ松江市には多くあります。今後指定文化財の候補リストの作成などを進めるとともに、調査研究を進めることで、さまざまな文化財の価値が顕在化していくはずです。

一方で法や条例などに基づいて行われる類型化や価値付けが難しいものも多くあります。たとえば松江市の「歴まち計画」では伝統工芸等として、①めのう細工、②来待石、③陶窯、④和菓子、⑤八雲塗、⑥出雲民芸紙、⑦籐工芸、⑧松江和紙手鞠、⑨姉様人形、⑩雲州人参(薬用人参)をあげています。また上位計画の「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」、「松江市伝統文化芸術振興計画」で定められた考え方などにより、松江の伝統に根ざした「文化財」が現れてきます。

そのほかに、食文化も、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたように、文化財として継承していくべき一つの分野として重視されてきています。松江の食文化はあらゆる要素が混交して今がありますが、その要素を一つ一つめくっていき、歴史を追っていくことで、その地域色が明らかにされることが期待されます。松江の特色とされる和菓子や^{しんじ}笑道湖七珍、^{こしつちん}板わかめ、野焼きや独自の魚介料理などのほか、新たな食の伝統が浮かび上がることもあるかもしれません。国際文化観光都市として、弁当、土産物なども松江を特徴づける食となることも検討します。

なお、松江市で現在把握している未指定文化財件数は、次ページの表のとおり2万344件です。

松江市所在の把握している未指定文化財数

区分	件数	元資料など
有形文化財	5,776	
建造物	1,093	『民家緊急調査』、『近代化遺産』、『近代和風建築』、建造物悉皆調査（登録歴史的建造物）、社寺建築悉皆調査
絵画	287	松江歴史館収蔵品データベース
彫刻	6	松江歴史館収蔵品データベース
工芸品	153	松江歴史館収蔵品データベース
書跡	55	松江歴史館収蔵品データベース
典籍	121	松江歴史館収蔵品データベース
古文書	286	松江市史編纂事業調査件数
考古資料	3,733	市収蔵施設保管遺物 ※単位：コンテナ
歴史資料	42	松江歴史館収蔵品データベース
無形文化財	33	
工芸技術	12	島根県ふるさと伝統工芸品
食文化	21	『松江の食絵巻』
民俗文化財	11,235	
有形の民俗文化財	11,212	市所有民具リスト、松江歴史館収蔵品データベース
無形の民俗文化財	23	松江市伝統芸能保護育成協議会加盟団体
記念物	2,897	
遺跡	2,658	埋蔵文化財包蔵地、『島根の戦争遺跡』
名勝地	167	『古典に登場する名勝地調査』
動物、植物、地質鉱物	72	「わがまち自慢発掘プロジェクト」、島根半島・中海穴道湖ジオパーク ジオサイト
文化的景観（景観全般含む）	400	「みんなで残したい松江の景観400選集」
伝統的建造物群	3	松江市登録歴史的建造物対象エリア
計	20,344	

※上記件数は、計画作成時点で現存を確認しているもの